

## 日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画報告書

伊達椋平

長いようで非常に短く感じた1年間の研修が終わりました。今日は無事に日本に帰国し、一年ぶりの夏の暑さと蝉の声を聴きながら、このレポートを書いています。メキシコを出発するときにはたくさんの友達が見送りに来てくれて、日本に帰ってしまうのが惜しく感じてしまうほど、メキシコでの生活は温かい仲間たちに囲まれ充実したものであったなと振り返ります。多くの人の支えがあってこの研修を終えられたことに深く感謝をしながら、メキシコでの最後の1ヶ月を振り返りたいと思います。

7月のメキシコは、相変わらずカラッとした暑さの気候が続きます。夜中になると少し肌寒い日もあり、そんな時は上着を一枚羽織って寝ることもあります。

さて、最後の1ヶ月は学校もありませんでしたので、1週間ほどの大きな旅行を計画しました。目的地はチアパス州という南のグアテマラとの国境を持つ州です。他の州と比較してもかなり大きな州になりますので、チアパスをくまなく知ろうとすれば1週間でも足りないくらい見所の多い場所でもあります。一言で言うとそこは今までメキシコで見てきた良い部分が集約された、素晴らしい世界でした。大きな溪谷、湖、滝といっ

た大自然から、先住民が暮らす村、色鮮やかな手工芸品などの芸術、文化にも触れることができ、もちろんその全てを体験したかったのですが、やはり移動に時間がかかるので1日1スポットという感じでできる限りのチアパスを満喫してきました。

大自然を感じることができるのは、agua azul（青い水）と cañón del sumidero（スミデロ溪谷）です。Agua azul は文字通り青い水が流れる川の名前で、大きな滝も流れる見ごたえ抜群の観光地です。海はもちろん青いですが、青い川って見たことがあるでしょうか。実際に青く見える川を見たときに、日本にはない異国感溢れる場所という印象でした。

Cañón del sumidero は巨大な崖に挟まれた川で、雄大な自然を感じることができます。そこにはサル、ワニ、イグアナなどメキシコ南部ならではの動物たちも多く生息し、船で河を往復しましたが、所々でそれらの動物を目にすることができました。川の真ん中に大きなゴミの島ができてしまっていたことは少し残念でしたが、ツアーのスタッフが呼びかける、川の清掃を行うなど観光災害に対する対策がされていることもしり、安心しました。



宿はサン・クリスト

バル・デ・ラス・カサスという町にありました。基本的にメキシコ南部の夏は熱帯雨林気候帯により蒸し暑いのですが、この町は標高がかなり高い場所にあるため、夏でも比較的涼しく、快適な場所でした。先住民のコミュニティも近くにあることから、広場では主に先住民の女性たちがそれぞれ作った手工芸品を売っています。町のいたるところで先住民言語を使って会話をしているのを聞くと、まるで違う国にいるようでした。もちろん彼らはスペイン語も話せますが、ネイティブのようにはいかないようです。市場はシティーの市場とはまた違った雰囲気、鶏は生きたまま買って持って帰っていたり、フルーツもスターフルーツやドラゴンフルーツなど南部ならではのものが多くて面白い物も非常に楽しかったです。

ちなみに先住民の暮らす村にも行ってきました。雰囲気としては田舎の村、看板などもスペイン語で書かれており、特に変わった雰囲気があるという感じはなかったのです

が、教会に入ってみると一面に草が敷き詰められ、色とりどりのろうそくと鶏を前にお祈りをしている人たちがたくさんいました。ガイドの人によると、昔は山の中でお祈りを行っており、その名残で一面に草が敷き詰められているそうです。さらに、医療サービスも悪く信用されていないということで、教会で治すようお祈りをするというのが一般的なようで、色のついたろうそくを患者の病気に合わせて恣意に並べ、祈りとともに鶏を犠牲にすることで患者の魂を取り戻すのだそうです。



自然、芸術、文化それぞれを併せ持ったのがメキシコという素晴らしい国なのだと一年を通して思いました。

終わりにりましたが、1年間私たちを支え

てくださった県庁国際課の方々、メキシコの友人たちはもちろん、メキシコにある広島県人会の方々にも大変お世話になりました。改めて深く感謝申し上げ、このレポートを締めくくらせていただきます。ありがとうございました。